

子どもセンター  
天文クラブ

〈日程・内容〉下表のとおり  
 〈場所〉子どもセンター（日夏町）  
 〈対象〉小学4年生～中学3年生  
 〈定員〉20人程度  
 〈年会費〉3千円（会員は、別途開催する星空教室の受講料が無料になります）  
 〈申込開始日〉5月7日（月）～（以後随時募集）  
 〈申込・問い合わせ先〉子どもセンター ☎28・3645番、FAX 28・3646番 ※電話、FAXまたは直接窓口へ

日 時	内 容	
5月25日(金)	各日とも 19:00～ 21:30	星見の道具を集めて
7月27日(金)		星空の地図から目印さがし
9月 7日(金)		見たい星見つけた
12月 7日(金)		見つかったら写真を撮ろう
平成25年 3月22日(金)		まとめ

※予備日は、いずれも各日の翌日です。  
 予備日に実施する場合は、天候に関係なく実施します。

サキタハチメのこぎりコンサート with フレンズ  
 「ハチメから えがおを。」

テレビ番組の音楽を担当している、のこぎり奏者サキタハチメさんとその仲間たちによるコンサートです。サキタハチメさんは平成23年度芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞しました。

日時 6月24日(日) 14:00開演 (13:30開場)  
 場所 みずほ文化センター多目的ホール(田原町)  
 入場料 前売 1,000円、当日 1,200円 (全席自由)  
 ※3歳以上は有料  
 入場券販売所 みずほ文化センター、ひこね市文化プラザ、平和堂アル・プラザ彦根くらしのサービスセンター、ビバシティ平和堂くらしのサービスセンター  
 問い合わせ先 みずほ文化センター  
 ☎43-8111、FAX43-8112

市職員を募集します

職 種	人 数	受 験 資 格	受付期間・試験日など
助産師 または看護師	20人 程度	昭和27年4月2日以降に生まれた人で、助産師または看護師の免許を有し、交替勤務ができる人	受付期間 平成25年3月11日(月)までの8:30～17:15 (土・日曜日、祝日は除く) 試験日 随時
問い合わせ先 市立病院事務局職員課 ☎22-6050 (内線3516、3517)、FAX26-0754			

水無月  
 狂言の集い



日時 6月9日(土) 午後6時30分～(午後8時30分終了予定)  
 場所 彦根城博物館能舞台  
 演目・出演 大蔵流狂言  
 「磁石」茂山正邦、松本薫ほか  
 「口真似」茂山千三郎、茂山七五三ほか  
 「鈍太郎」茂山千五郎、茂山茂ほか  
 入場料 (全席指定)  
 A席3,500円、B席3,000円  
 発売開始日 5月9日(水)  
 ※発売初日は、午前9時(窓口)、午前10時(電話予約)に発売を開始します。発売日以降は、彦根城博物館受付と電話でお求めいただけます。  
 販売窓口・問い合わせ(予約)先  
 彦根城博物館 ☎22・6100番、FAX 22・6520番  
 ※開演時間・演目・出演者などは、都合により、やむなく変更することがありますので、ご了承ください。  
 ※未就学児の入場はお断りします。

おわびと訂正 広報ひこね4月15日号8ページ「募集」欄のうち「荒神山公園春のついで」とあるのは、「荒神山公園春まつり」の誤りでした。おわびして訂正します。

連載企画 「わたしの町の戦国 第22回」

河瀬城ー河瀬氏ゆかりの平地城館ー

河瀬荘

川瀬馬場町は犬上川扇状地の末端部に位置しており、南の南川瀬町に対して北川瀬とも称したようです。川瀬馬場を描いた古い絵図を見ると、集落の東側は扇状地特有の不規則な地割が描かれるのに対して、西側は扇状地末端から湧き出る湧水に恵まれた低地となり、整然と碁盤目に区画された条里地割が広がっています。条里地割は、古代から中世にかけて行われ



▲川瀬馬場村地引絵図(部分)

た土地区画制度に基づく地割で、縦横の一边を109メートルに区画する大事業でした。当地一帯は、中世になると河瀬荘と呼んだ荘園が存在しました。河瀬荘は川瀬馬場や南川瀬を中心に、北は犬上川まで、南は出町、東は葛籠町、そして西は蓮台寺町辺りまで広がっていました。

河瀬氏

川瀬馬場の地に城館を構え

たと伝えるのが河瀬氏です。河瀬氏は、古くから河瀬荘の現地管理を荘園領主から委任された荘官であったようですが、しだいに川瀬馬場を本拠として武士化し、城館を築くようになったと考えられます。河瀬氏は京極氏の流れをくみ、河瀬荘蓮台寺の蓮台寺氏、宇尾の大字氏、そして多賀社の神官を兼ねていた多賀氏なども一族でした。『江州佐々木南北諸土帳』(佐々木一族が近江を支配した中世に、近江に存在した城名と城主名を列挙したもの)には、河瀬城の河瀬寺岐守秀成、大宇(宇尾)城の大宇大和守秀則、蓮台寺城の蓮台寺主膳正、そして多賀社の河瀬主馬の名があり、甘呂城にも河瀬大和守秀宗の名が記されています。また、江戸時代の地誌である『淡海木間撰』では、河瀬氏・大宇氏・蓮台寺氏の3家が「犬上衆」として姉川合戦で活躍したこと、小谷城総攻撃では浅井一族とともに討死したことなどを伝えています。

河瀬城跡

河瀬氏は川瀬馬場のどの辺りに城館を構えていたのでしょうか。川瀬馬場の集落の東隅に河瀬神社が存在します。社殿の周囲に湧水池の点在する広大な神社で、江戸時代には「川柎神社」「柎の宮」あるいは「気多大明神」などとも称され、河瀬荘一帯の中心をなす神社でした。河瀬神社の創建については明確ではないようですが、神社本庁調査部が刊行した『神社名鑑』には、河瀬寺岐守やその孫の河瀬隼人正によって再興されたと記されています。河瀬氏の庇護によって維持された、河瀬氏ゆかりの神社であったと考えられます。



▲現在の河瀬神社

い道などによって比較的整然と区分されています。あくまでも推定ではありますが、現在も住宅となっているこの区画内(上図の点線で囲んだ部分)に、かつて河瀬城が存在した可能性が考えられます。

問い合わせ先 両教育委員会  
 文化財課 ☎26・58033番  
 FAX 26・58099番

両教育委員会文化財課では、地域に埋もれた文化財資料を探しています。ご存じであれば、ご連絡ください。